

付着生物ラーバ情報

西湾でユウレイボヤが大量付着する可能性があります

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ、ゴダゴダ)

ラーバは1月27日に奥内沖で14.2個体/m³、久栗坂沖で1.1個体/m³、2月3日に奥内沖で4.2個体/m³、久栗坂沖で2.8個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキガイ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは1月27日に奥内沖で14.2個体/m³、久栗坂沖で6.1個体/m³、1月28日に野辺地沖で74.2個体/m³、2月3日に奥内沖で19.2個体/m³、久栗坂沖で12.8個体/m³、野辺地沖で32.8個体/m³、川内沖で7.8個体/m³見られました(表1)。

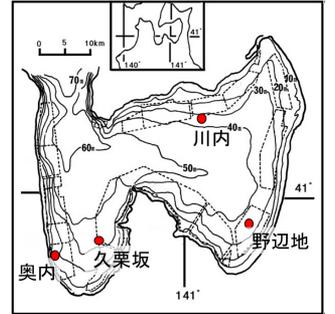


図1 付着生物ラーバの調査地

(3) キヌマトイガイ (通称: コメガキ)

ラーバが1月27日に久栗坂沖で6.1個体/m³、1月28日に野辺地沖で367.2個体/m³、2月3日に奥内沖で13.3個体/m³、久栗坂沖で7.2個体/m³、野辺地沖で146.1個体/m³、川内沖で3.1個体/m³見られました(表1、図3)。

(4) ミネフジツボ (通称: カキ)

付着直前のラーバが1月28日に野辺地沖で1.6個体/m³見られました(表1)。

表1 ラーバの出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキガイ	ミネフジツボ
奥内沖	R7.1.27	14.2	0.0	14.2	0.0
	R7.2.3	4.2	13.3	19.2	0.0
久栗坂沖	R7.1.27	1.1	6.1	6.1	0.0
	R7.2.3	2.8	7.2	12.8	0.0
野辺地沖	R7.1.28	0.0	367.2	74.2	1.6
	R7.2.3	0.0	146.1	32.8	0.0
川内沖	R7.2.3	0.0	3.1	7.8	0.0

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は西湾で8~10℃台、東湾で5~7℃台と、**西湾ではユウレイボヤが産卵する8℃以上の水温となっています。**

10月以降の**ラーバ累積出現数**は、奥内沖で**36.8個体/m³**、久栗坂沖で**15.2個体/m³**、野辺地沖で**11.7個体/m³**と付着数が多くなる目安である5.0個体/m³より**多い**状況です。**西湾**では昨年の累積出現数(奥内39.3個体/m³、久栗坂12.4個体/m³)並みに多いことから、**大量付着し、出荷時期に作業効率が低下する可能性**があります。

(2) ムラサキガイ

秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しないことが分かっています。

(3) キヌマトイガイ

ラーバが**増加した東湾海域では今後大量付着**する可能性があります。

(4) ミネフジツボ

例年、**1月下旬から2月**にラーバ**出現のピーク**を迎えることから、今後増加する可能性があります。

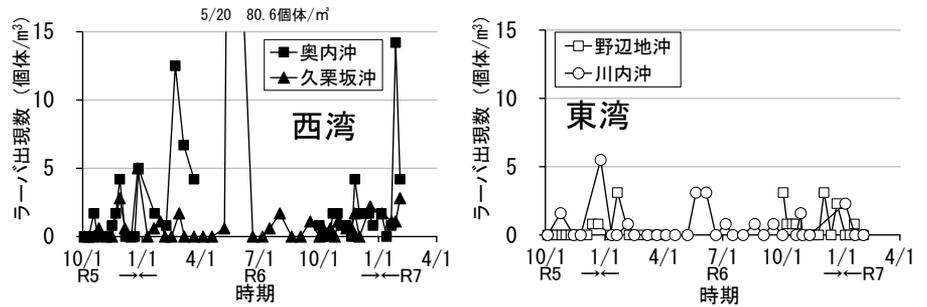


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和5年10月~令和7年2月)
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

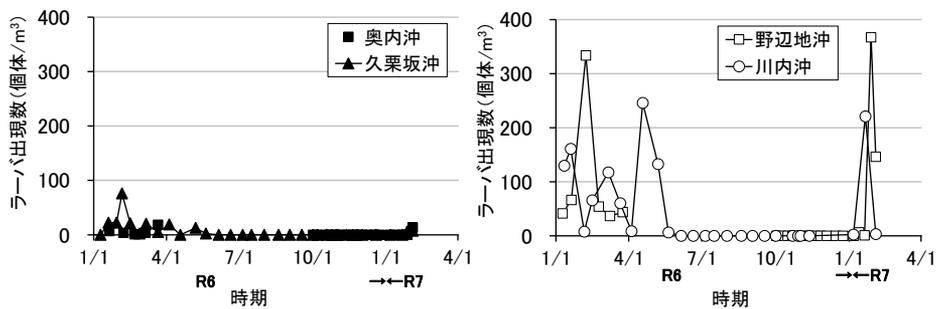


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(令和6年1月~令和7年2月)
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾915個体/m³、東湾4,483個体/m³

